

出産時のコントロールと満足感に対する妊婦の Self-Efficacy と出産準備充実感の関係

著者	亀田 幸枝, 島田 啓子, 田淵 紀子, 関塚 真美, 坂井 明美
雑誌名	日本助産学会誌 = Journal of Japan Academy of Midwifery
巻	16
号	3
ページ	82-83
発行年	2003-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/34925

doi: 10.3418/jjam.16.3_82

出産時のコントロールと満足感に対する 妊婦の Self-Efficacy と出産準備充実感の関係

金沢大学医学部保健学科 ○亀田 幸枝 島田 啓子
田淵 紀子 関塚 真美
坂井 明美

I 緒言

これまで、満足な出産体験を支援する出産教育のあり方を模索して Self-Efficacy に着眼し、妊婦の出産に対する Self-Efficacy を高める関連要因を検討してきた。欧米の先行研究では、妊婦の出産に対する Self-Efficacy は、出産時の痛みのコントロールを高め、出産体験を肯定的に受け止めると報告している¹⁾²⁾。一方、Lederman³⁾は、出産に対して準備を十分おこなったことと出産時の coping は関係すると述べている。しかし、出産様式や文化的背景の違う日本では、このような Self-Efficacy や出産準備充実感が、果たして出産に効果をもたらすかどうかは明らかにされていない。そこで、本研究では、妊娠中の出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の程度により、出産時のコントロールと満足感に違いがあるかどうかを明らかにすることを目的とした。

II 方法

1. 調査期間: 2002年5月～7月
2. 対象: 北陸の産科 8 施設で妊婦健診を受け、順調な経過をたどっている経膈分娩予定の初産婦で、本研究の主旨と結果の公表について同意が得られた 95 名。
3. 調査方法: 妊娠 36 週以降出産までの時点と出産後 3～7 日目に、同一対象に 2 回の自記式質問紙調査を行った。測定用具に、3 つの尺度を本調査用に作成した。1) 「出産に対する Self-Efficacy」は、出産に対する Self-Efficacy Scale (亀田他, 2001) の効力予期 12 項目 ($\alpha = 0.91$) の修正版を用いた。2) 「出産準備充実感」は、Lederman の Prenatal Self-Evaluation Questionnaire を参考にした 15 項目 ($\alpha = 0.86$) を使用した。3) 「出産時のコントロールと満足感」の測定には、常盤他 (2000) の出産体験自己評価尺度を参考にコントロール 5 項目、満足感 6 項目 ($\alpha = 0.70 \sim 0.79$) を作成した。1), 2) の尺度は妊娠中、3) の尺度は出産後に測定した。これら 3 尺度はそれぞれ 4 段階のリッカート評定を用い、高得点になるほど妊娠中の Self-Efficacy, 出産準備充実感, および出産時のコントロールと満足感が高いことを示す。分析には、SPSS for Windows 10.1 を用いた。分析手順は、まず、出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の各合計得点から平均値 $\pm 0.5SD$ を基準に得点の高い群と低い群に分け、各々を独立変数とした。次いで、出産時のコントロールと満足感を従属変数としてノンパラメトリックの Mann-Whitney-U 検定を行った。

III 結果

経膈分娩で健常な生児を得た有効回答者 77 名 (81.1%) を分析対象とした。年齢は、16~37 歳の平均 27.9 ± 3.9 歳であった。調査時期は、妊娠 36~41 週の平均 37.5 ± 1.3 週、出産後は 3~7 日の平均 4.3 ± 1.3 日であった。

1) 出産に対する Self-Efficacy と出産準備充実感および出産時のコントロールと満足感の実態

出産に対する Self-Efficacy (range12~48 点) は、最小値 17, 最大値 40 の平均 27.1 ± 5.8 点、出産準備充実感 (range15~60 点) は、最小値 22, 最大値 52 の平均 36.1 ± 6.9 点であった。また、出産時のコントロールと満足感は、コントロール (range5~20 点) が最小値 5, 最大値 20 の平均 11.3 ± 3.3 点、満足感 (range6~24) は最小値 13, 最大値 24 の平均 20.5 ± 2.9 点、全体 (range11~44 点) では、最小値 20, 最大値 43 の平均 31.8 ± 5.2 点であった。

2) 出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の程度による出産時のコントロールと満足感の違い

表 1 に示したように、出産時のコントロールと満足感は、出産に対する Self-Efficacy の低い群に対して高い群の方がコントロールと満足感は有意に高いことが示された。

表 1 出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の程度による出産時のコントロールと満足感の違い

	出産時のコントロールと満足感				全体 (mean±SD)	有意 水準
	第1因子「コントロール」 (mean±SD)	有意 水準	第2因子「満足感」 (mean±SD)	有意 水準		
出産に対する Self-Efficacy	高い群 (n=20)	12.6±3.4	*	21.3±2.8	33.9±4.5	*
	低い群 (n=21)	10.2±3.2		19.7±2.7	29.9±5.3	
出産準備充実感	高い群 (n=22)	12.2±3.8	NS	21.6±2.9	33.8±5.1	**
	低い群 (n=20)	10.2±2.8		19.3±3.1	29.4±5.0	

ノンパラメトリック Mann-Whitney-U 検定 NS: not significant *p<0.05 **p<0.01

一方、出産準備充実感の低い群に対して高い群の方は、満足感および全体の得点は有意に高いことを示し、コントロールは高い傾向にあった。

IV 考察

今回の調査では、妊娠中の出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の高い妊婦の方が低い妊婦に比べて、出産時のコントロールと満足感が高いことが示された。この結果は、Manning¹⁾ や Crowe²⁾ および Lederman³⁾ らの見解と同様であった。従って、出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感といった認知を高める介入の重要性が支持された。また、これら 2 つの認知面は、それを目的とする出産教育の評価に利用できる可能性が示唆された。本研究の限界は、使用した尺度に依拠したものであることに加え、一部の地方の限定された対象から得られた結果に基づくものである。

V 結論

初産婦において、出産に対する Self-Efficacy および出産準備充実感の高い人は、それが低い人に比べて、出産時のコントロールと満足感が高いことを認めた。

VI 文献

- 1) Manning MM. and Wright TL: Self-Efficacy Expectancies, Outcome Expectancies, and the Persistence of Pain Control in Childbirth, *J Per Soc Psychol*, 45(2), 421-431, 1983.
- 2) Kathryn Crowe and Carl von Baeyer: Predictors of a Positive Childbirth Experience, *BIRTH*, 16(2) 59-63, 1989
- 3) Regina P. Lederman: Psychosocial Adaptation in Pregnancy Second Edition Assessment of Seven Dimensions of Maternal Development, Springer, N.Y., 274-308, 1996.